

# I P U M A G

Iwate Prefectural University Magazine 2013 Summer Vol.

# 56

【特集1】

## 孤立を防いで 地域を元気に するには？



ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

【特集2】

## 中村慶久学長 × 坂口奈央さん 対談

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

県大いいね!キャンパスナビ



岩手県立大学



# 新しい支援のカタチをつくる。地域のつながりを活かしながら、

孤立を防いで地域を元気にするには？



## 滝沢村川前地区の取組み 様々な地域団体が連携して、一人暮らしのお年寄りを 見守るネットワークがつかられています



- 「カトレア会」の定期的サロン。県大の学食で開催することもあり、学生たちの姿を見てリフレッシュできるという。
- 民間業者と協力して、買物支援を行う「まごころ宅急便」。ドライバーは配達しながらお年寄りの安否を確認する。
- 5月に行われた「川前地区高齢者支援連絡会」での会議の様子。頻繁に会合を持ちながら、各団体が連携を取っている。
- 川前地区における生活支援の一つ「雪かきボランティア」。要望に応じて学生や住民がサポートしている。
- 「いわて“おげんき”みまもりシステム」では、電話を使って毎日の状況をみまもりセンターに発信する。
- 「カトレア会」では活動量計を使って、日々の運動量をチェック。プロジェクトの教員による健康指導などが行われる。

ICTを活用した見守りシステムの開発で、地域に支援のネットワークを。

少子・高齢化が進む中で、高齢者の社会的孤立や孤独死の増加などが、課題となってきました。特に岩手県は、高齢化率が27.9%（平成24年10月1日現在）と全国的にも高く、単身高齢者も年々増加。高齢者が安心して自立した生活が続けられるように、地域それぞれに見守りなどを行える環境づくりが求められています。

このような状況に着目し研究を行ってきたのが、岩手県立大学社会福祉学部の小川晃子教授。一人暮らしのお年寄りを対象とした新たな見守りのカタチとして、平成15年から旧川井村で「Lモード電話機」を活用した安否確認システムの実証実験をスタート。その後、平成21年度からは、岩手県岩手県社会福祉協議会と共に、「いわて“おげんき”みまもりシステム」の開発に取り組みしました。

このシステムは、一人暮らしの高齢者が電話を使って毎日の状況発信。これを見守りセンターとなる市町村社協が確認し、状況に応じて民

生委員などの地域の見守り協力者が直接安否確認に向くなど、単身高齢者の安心をサポートするシステムです（右図参照）。さらに平成22年度からは、科学技術振興機構社会技術開発センターの「コミュニティ」領域での採択を受け、見守りシステムに地域の支え合い機能を組み合わせながら新たなコミュニティづくりを推進中。大学のある滝沢村などを中心に、「郊外スプロール型」「ニュータウン型」「都心型」「過疎高齢化発展型」の4つのフィールドで実験に取り組んでいます。

### 地域団体が連携し合い、高齢者の見守りを支援。

小川教授らは、そのフィールドの一

つ「郊外スプロール地域」である滝沢村で、特に集中的な取り組みを行っています。滝沢村の単身高齢者数は、平成24年6月1日現在で1896人（※1）。このような高齢者を見守るために、同川前地区では、自治会や滝沢駅前安心・安全の会、県立大学の学生など、さまざまな地域団体が連携。団体同士がネットワークをつくることで、見守りの他に買物や雪かきなど、多様なサポートを展開しています。（左上の図参照）

となり、利用者による健康づくりサロン「カトレア会」が発足しました。この会では、2週間に1回の測定に合わせてサロンを開き、プロジェクトの教員による健康指導などを実施。世間話に花を咲かせながら、単身高齢者同士の新たなつながりを育んでいます。

このように、地域団体や高齢者間のネットワークが広がりはじめた滝沢村。さらに民間企業と協力して買物支援を行う「まごころ宅急便」など、生活支援の充実にも取り組んでいます。

### 見守りシステムと、支え合いの絆を結びつける。

一方、同村湯舟沢地区では、民生委員の呼びかけで平成23年12月から「おげんき発信」モニターとして、6名の高齢者が利用を開始。さらに平成24年6月から運動量を測る活動量計を使い始めたことがきっかけ

「ICTなどのシステムと実際の人々との支え合いの絆を結びつけながら、地域全体で高齢者の孤立を防ぐコミュニティづくりが重要。少しでも多くの地域に広げていきたいですね」と、小川教授。高齢者が安心して暮らせるように、地域ぐるみで支える仕組みとして今後の拡大が期待されています。

#### 「地域の方からのメッセージ」

滝沢村民生児童協議会会長 篠崎 孝子氏  
18年間 民生委員を務めています。私の担当は約250世帯。そのうち15世帯が一人暮らしのお年寄りです。昨年、地区内で孤独死をされた方がいて、日頃の見守りがいかに大事なのかを痛感。さういふ意味でも、この見守りシステムは必要なのだと思います。ただ、どんなに利用を薦めても「まだ自分は大丈夫」という方がほとんど。システムが普及するまで、もう少し時間がかかるかもしれませんね。私自身、一人暮らしの方のためのサロンを開いているのですが、大事なものは日頃の対話と信頼の積み重ね。この関係を保ちながらシステムを活用できれば、もっと安心して暮らせるようになると思います。



「お年寄りの見守りには、民生委員だけでなく一人でも多くの人に関わってほしい」と話す、篠崎さん。

（※1）住民票に登録されている数字であり、家族同居で世帯分離をしている場合も含まれる。

# 「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎研究・開発ストーリー  
 聴覚障害者のための生活音識別システムの開発において、当初は携帯電話への導入や専用ハードウェアの実現などを試みたが、識別結果の表示速度やコスト面から満足のものにならず、開発は難航。しかしAndroid端末の登場により研究が加速、10年の歳月をかけて低コストで使えるシステムを実現した。この生活音識別システムは、Androidアプリの中では国内初。2013年3月に開催された「東北復興ビジネスプランコンテスト」では、見事、最優秀賞を受賞した。

猿舘さんは現在、岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究所博士課程に籍を置きながら、地域連携本部のプロジェクト研究員として活躍中。

【研究メンバー】  
 写真左から  
 猿舘 朝 さん(システム開発者)  
 伊藤 憲三 先生(大学時代からの研究指導者)

今回の研究テーマ

## Android端末を用いた生活音識別システム

【ソフトウェア情報学研究所・地域連携本部プロジェクト研究員】 **猿舘 朝**

生活音を識別できるシステム開発で、耳が不自由な方の暮らしを支援。

インターホンや電話、電子レンジなど、私たちの身の回りには様々な音がふれています。しかし、聴覚障害者や耳が遠い高齢者などは、これを聞き取ることができません。そこで猿舘朝さんは、生活音を識別できるシステムがあれば、耳の不自由な方々をサポートできるのではないかと考え、研究に着手。市販機器を調べてみると、識別できる音が少なかったり、追加機器が必要で高コストになるなど、様々な問題点が見受けられました。生活する上で重要な音は10~15種類と言われています。猿舘さんは、これらの生活音を予め登録しておくことで、識別精度を高め、さまざまな音に対応できるシステムを構築。実験の結果、目覚まし時計や警報器音は100%※、全体でも高い精度で識別できることがわかっています。

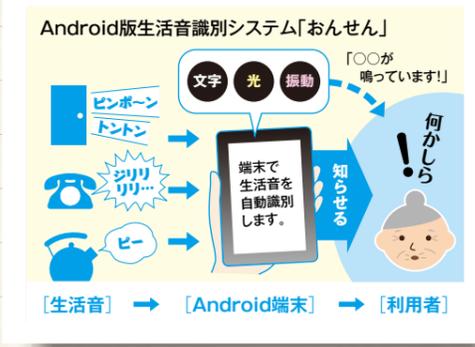
※ SN比(測定対象の音とノイズの比率)10デシベルの環境下で実験した結果の数値。



生活音(下アヤム)をAndroid端末に登録する画面(開発中)

家の中のどこにいても音をキャッチ、「安心して暮らせる」と利用者に好評。

音センサーの役割を果たすことから「おんせん」と名付けられたこのシステムは、スマートフォンの主流となりつつあるAndroid端末を利用します。Android端末は、Wi-Fiなどの無線通信に対応しているものが多いため、端末間での通信を行うことが可能。左の図のように端末Aで識別した生活音を、利用者の手元にある端末Bへ同時に知らせることができるのです。これによって家の中のどこにいても、音を瞬時にキャッチ。万一、火災などが発生しても素早く対応することができます。現在、滝沢村の聴覚障害者のご夫婦に、このシステムを試していただいています。非常に助かると喜ばれていますが、意見を伺いながらさらに調整を進めています」と、猿舘さん。2013年12月にはGoogle Playストアで、配信する予定です。



## 一人暮らしを、地域でサポートするには?

特集1の取り組み内容に関連したアイデアをtwitterで募集したところ、日常生活の中で気軽にできそうなものやSNSを活用した新提案など、多くのツイートを寄せていただきました。その中からいくつかをご紹介します。

広報誌 × SNS  
岩手県立大学公式twitterアカウント IPU\_official



公民館等の既存公共施設を活用するワークショップなどのイベント検討と、それらを周知する方法の工夫 (SNSでの発信やバス停の裏に掲示板とか) などで、各地域との繋がりを持つ仕組みをわかりやすい形で作れば、おのずと一人暮らしの方のサポートにつながっていくのではと。@kodaredera

コミュニティスペースの充実と、SNS等を活用したオフ会の充実。オフ会は初期のみサポートして、以降は参加者が幹事を持ち回り等、当事者が仕切っていく形にできるのが理想ですし、地域のサポート労力も減らせるかと。高齢者の事を考えると、コミュニティスペースの場所は公共の交通機関でのアクセスが容易だったり、商店街内が理想。SNSなどへのアクセスの手段、スキルがない人向けに共用のタブレット設置して代筆、教えてくれる人が居てくれるといいけどコストがかかりすぎるか・・・@hiroshi\_s2kb

一人でも参加しやすいお茶会や行事等の交流会の計画。なかなか一人じゃ不安だ、怖いというひとのために相談できる場を設けるなども大切だと思います! @skowmolv

ある程度次世代を見据えたネット環境と連携した医療、ケア、買い物サービスと、地域でおいちゃま方がネットで繋がるシステムの構築、そのオフ会を集会場で・・・なんて面白いかも。まあ次世代の高齢者はネットのハードルも低くなりそうですし。若者と高齢の垣根も狭まるかも。@cucikon

BBQやりましょう! (笑) @nobisuke

### Comment

一人ひとりに、地域のなかで「居場所」と「つながり」があることが大切ですね。買い物にいった先で世間話ができる、地域SNSの中でおしゃべりができる等々。そうした関係があれば、何かあった時に「ちょっと様子がおかしい」と誰かが気づき、手助けや支援の手を差し伸べることができます。



社会福祉学部教授 小川 晃子

とにかく皆で挨拶し合うとか。一人暮らしだったりすると、あんまり挨拶もしないケースが多いかも。普段から繋がってれば、いざという時助けを求めやすいはず。@shirabemelody

やはり話し相手が必要なんだと思います。当店にも一人暮らしの高齢者の方が多く来店しますが、世間話をしてスッキリして帰られます。買い物しなくてもいいんです。店主やスタッフが面倒だと思うはず話を聞く心をもつことが。@Nandarikan

一人暮らしの人限定で産直の食べ物を特別価格で安く買えるようにする。@nanachu127

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただきます。

【特集に関するアイデア・ツイートの流れ】 特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「56」、次号では「57」と変化しますので、「#ipumag56」「#ipumag57」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。 ※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



中村慶久学長 × 坂口奈央さん対談

## 「学ぶ姿勢」を育みながら、「学びたい気持ち」に応える大学へ。

生涯学び、成長し続けるということについて、大学院総合政策研究科博士前期課程1年の坂口奈央さんと本学の中村慶久学長が対談。アナウンサー時代の経験などから「復興の力になる学問を究めたい」という坂口さんの思いと、それに応える場としての「大学院」。お二人の話から改めて学びの大切さなどを考えてみたいと思います。

### 学びを通して自分を成長させる。

**坂口奈央さん(以下、坂口)** 大学院への進学を考えた理由は、大きく二つあります。一つは、80歳を過ぎた方が大学で学んだことを取材し、感銘を受けたこと。その方は「学ぶことが楽しくてしょうがない」とおっしゃっていて、その言葉がずっと胸に焼き付いていました。もう一つの理由は、震災です。二つの後に必ず自分のコメントを挟むんですが、被災された方々の様子や思いを受けて、それに応えられるような言葉が出てこない…。自分に足りないのは論理的思考ではないかと気づき、「考えを組み立てる力」を身につけたいと思ったんです。



**中村慶久学長(以下、中村)** 論理的な組み立てができるということは、とても大事。私も人前で話をする人が多いのですが、自分の経験をベースに、その場に合ったプラスαを加えて話を構築していますね。

**坂口** 岩手県立大学を選んだ理由に「フィールドとしての岩手」にこだわりたい思いがあったのですが、学生の質の高さも理由の一つです。何度かインタビューをしましたが、コメントがしっかりしていて、厚みがある。震災時の学生の活動にも目を見張るものがありましたね。

**中村** 確かに学生たちは頑張ってくれましたが、今後いかにより多くの学生を巻き込み、全体の動きに広げていくのが課題です。そのためにも、まずは岩手のことをもっと知ってほしい。さまざまな地域を知り、視野を広げる中で、取り組むべき課題が見えてきます。

### 岩手の復興のために役立つ学問を。

**坂口** 学問という側面から復興にアプローチできないかと考え、「震災復興学」に取り組んでみたいという思いがあります。先日、「復興女子会議」に参加した際に、その立ち上げについて提案したのですが、これに結構反響があったんです。会場にいた県立大学の学生たちが私の所に来て、「ぜひやりましょう」と言ってくれたんですよ。

**中村** 大学でも災害復興教育や復興研究に取り組んでいます。「震災復興学」はいいですね。心の問題やソフトの面から考えても、「復興学」を追求していく意義は大いにあります。

### 生涯勉強できる新たな学びの場へ。

**坂口** 大学院に入るまでは、学ぶことがこんなに楽しいとは思っていませんでした。やはり、やりたいことが明確になったからでしょうか。

**中村** 問題意識を持って学ぶから楽しいのです。大学は「自ら学ぶ姿勢」を育む場所。激動の時代を「生き抜く力」を培うことが、我々の果たす役割だと思っています。しかしこの力は、大学の4年間だけで育めるものではありません。社会に出てから直面するさまざまな問題を、いかに乗り越えるか。そういう意味では生涯勉強です。大学は学問を通して「生学び」続けられる場になるべきだと思いますね。

**坂口** 大学院には、社会人の院生がとても多いですね。みなさん働きながら学んでいます。

**中村** 大事なことは、学ぼうとする姿勢を持ち続けること。よく批判ばかりする人がいますが、物事がなぜそうなるのかを調べるなど、常に学ぶ姿勢で臨むことが大切です。他の国では年齢に関わらず、学ぶことに貪欲な人が多い。日本でも「学びたい」という気持ちに応える場として、大学をもっと活用してほしいと思います。

### 岩手の可能性に目を向けよう。

**坂口** 私は静岡出身なのですが、今では岩手の方が本當の故郷のように感じています。震災を経て、岩手という土地に生きる人々と、より密

接に関わりたいという気持ちが強くなりました。ここでの経験や育んだ縁を、これからの岩手に生かしていきたいですね。

**中村** 岩手は県土も広いし、まだまだ伸びしろがあるのが面白い。私は長く仙台にいましたが、岩手に帰ってくると「故郷はいいな」と思います。石川啄木や宮沢賢治が愛した岩手山が見える場所に、大学があるのも素晴らしいこと。地元にいるとわからないかもしれませんが、もっと岩手の良さに目を向けるべきだと思います。

**坂口** 可能性という意味では、まだまだいろんなことが学べる土地ですね。

**中村** 坂口さんのように岩手の良さを理解し、向学心を持った方に入学していただいたのは、とてもうれしいことです。

**坂口** 社会学をベースに「震災復興学」に取り組んでいる人が少ななので、いろいろな学びながら自分なりの道筋を見つけていければと思っています。

**中村** ぜひとも「震災復興学」の確立を目指して、大いに学ばせたいです。他の学部での勉強にも興味を広げていただきたい。坂口さんの学ぶ姿勢が学部生や院生のいい刺激になると思いますよ。

#### 坂口奈央さん PROFILE

静岡県出身。岩手めんこいテレビへの入社とともに岩手に移住し、アナウンサーとして活躍。平成25年4月、岩手県立大学大学院総合政策研究科に進学。社会学の視点から「震災復興学」を確立したいと、日々勉強に励んでいる。



「中村学長様とお話で、改めて目標が明確になりました。誰もやっていない震災復興学を極めていきます」と話す、坂口奈央さん。

#### 中村慶久学長 PROFILE

岩手県滝沢村出身。東北大学教授、(独)科学技術振興機構ISTイノベーションプラザ宮城館長を経て、平成21年度から岩手県立大学学長に就任し、現在に至る。工学博士(専門分野:電子工学・情報記録工学)。



「いつになっても学びたいという人が増えると思う。その気持ちに応え、後押しして大学でありたいですね」と、中村慶久学長。

**希望を胸に797人が入学、  
滝沢・宮古で学生生活をスタート。**

4月4日(木)に宮古短期大学部、翌5日(金)には岩手県立大学、大学院及び盛岡短期大学の入学式が行われました。今年度の入学生は合わせて797人。それぞれの会場となった宮古キャンパス、岩手産業文化センター(アピオ)では、来賓や保護者の方々があたたかく見守る中で式典が行われ、会場内は新しい生活への期待と喜びであふれていました。



TAKIZAWA CAMPUS 4.5



MIYAKO CAMPUS 4.4



**本学の学生生活を全身で感じる「新入生歓迎会」**

4月6日(土)、本学では今年も体育棟、学生ホール棟を会場として新入生歓迎会を開催しました。在校生はブースでの活動説明やステージ発表などを通し、各団体の「らしさ」や魅力を盛り込んだアピールを実施。新入生は興味のある団体を探したり、ステージ発表を見たり、ブースで活動説明を熱心に聞いたりという在校生との交流から、県大の学生生活に触れるだけでなく、学生生活という雰囲気を感じている姿が見受けられました。(出版委員会・山本明寿佳)

**支援に取り組む学生団体が集合、  
復興cafeで活発に交流**

4月27日(土)、学生ボランティアセンター×復興girls&boysの企画による「復興cafe」が本学食堂を会場に開催されました。岩手県内の復興に携わる学生団体を集め、復興支援活動の情報共有を目的としたもので、参加7団体による活動報告やブースでのトークが行われました。コーヒーとシフォンケーキも販売され、カフェスタイルを楽しみながら、活動への理解を深めることができるイベントで、70名を超える来場がありました。



4.27



4.24

**学部広報漫画「明日もソフト日和」  
ホームページで公開中!**

ソフトウェア情報学部での学びや将来像について、より楽しくわかりやすく紹介するため、学部の若手教員と漫画家の月子さんと共同で制作した学部広報漫画がホームページで公開されました。冊子版も制作され、説明会等での配布や盛岡地域の一部書店等で配架されているほか、4月24日(水)には制作にあたって協力をいただいた滝沢第二中学校の生徒の皆さんへお礼の意味を込めた贈呈も行われました。

<http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/manga/>



5.11



5.11

**学部・大学を越えての交流、元気な歓声で賑わった体育祭**

5月11日(土)、本学の体育棟で、第5回体育祭が開催されました。岩手県立大学四学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部、教職員から145名が参加。玉入れ・長縄跳び・障害物競争・ドッチビー・しっぽ取り鬼ごっこ等の計5種目が行われました。特に長縄跳びでは、跳び方を工夫し、声を合わせて跳ぶことで、学部内の絆を深めた様子。優勝した総合政策学部・盛岡短期大学部混合チームには、商品が贈呈されました。体育祭の総括を務めた佐々木絢子さんは「1年生の頃は先輩の指示に従うだけでしたが、今回は球技大会の経験もありうまく動けたと思います。体育祭を通して、運動が好きな人にはスポーツを、1年生には学部内での交流をしていたら幸いです。」と、話していました。(出版委員会・坂松春香)



TAKIZAWA CAMPUS 5.2

**15名の学生たちが受賞、  
優秀学生賞授与式を行いました**

平成24年度優秀学生賞の授与式を、岩手県立大学及び盛岡短期大学部は5月2日(木)に、宮古短期大学部は5月9日(木)にそれぞれ行いました。平成24年度の各年次終了時において特に優れた学業成績を取った学生を表彰するもので、今回の対象は看護・社会福祉・ソフトウェア情報・総合政策学部から各3名、盛岡短期大学部から1名そして宮古短期大学部から2名の合計15名。優秀学生賞の授与の後、学長からはお祝いの言葉と、勉強や課外活動を通して大学生活を楽しく充実したものにしてほしいとの思いが伝えられました。



MIYAKO CAMPUS 5.9

**滝沢村を盛り上げよう!  
県大と睦大学が交流会**

滝沢村のお年寄りのための大学である睦大学と、県大との交流会が5月25日(土)に滝沢村ふるさと交流館にて開かれました。滝沢村村長と県大生の懇談会がきっかけとなり、交流会では今まで交流のなかった睦大学と新たな関係ができたほか、学内の活動を地域に発信するいい機会となりました。今後も地域との交流の場を増やしていくため、IPU応援団～地域×IPU～では新たなメンバーを募集しています。(出版委員会・山崎智水)



5.25

# I P U T O P I C S

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

**人事異動情報**

平成25年3月31日付転出・退職  
政策地域部/地域振興室/東北沿岸・定住交流課長(前 教育研究支援室/副参事兼教育研究支援課長) 藤田 芳男  
農土整備部/建設技術振興課/主任主査(前 教育研究支援室/主幹) 坂本 進  
秘書広報室/秘書課/主査(前 教育研究支援室/主査) 中野 綾  
商工労働観光部/産業経済交流課/主任(前 教育研究支援室/主事) 高橋 円花  
商工労働観光部/雇用対策・労働室/室長(前 学生支援室/室長) 寺本 樹生  
秘書広報室/広報広報課/報道監(前 学生支援室/学生支援課長) 上和野 里美  
総務部/総務事務センター/主査(前 学生支援室/主査) 玉川 房子  
秘書広報室/広報広報課/主任(前 学生支援室/主査) 菅原 則彦  
政策地域部/政策推進室/特命課長(いわて未来づくり機構) 地域連携室/復興企画コーディネーター 鎌田 徳幸  
農林水産部/農林水産企画室/主査(前 地域連携室/主査) 阿部 幸子  
農林水産部/団体指導課/総括課長(前 企画室/室長) 宮野 孝志  
保健福祉部/児童家庭課/健全育成担当課長(前 企画室/企画課長) 高橋 一志  
総務部/岩手県東京事務所/全主任主査(前 企画室/主幹) 菅原 ゆかり  
商工労働観光部/経営支援課/主任主査(前 企画室/主幹) 藤村 真一  
保健福祉部/医療政策室/主査(前 企画室/主査) 藤澤 透  
盛岡広域振興局/県税部/主査(前 企画室/主査) 岩崎 操  
大槌町/産業振興部長(前 企画室/主査) 大釜 範之  
総務部/総合防災室/主任(前 企画室/主査) 高橋 昭彦  
盛岡広域振興局/保健福祉環境部/主査(前 企画室/主査) 鈴木 恵美子  
沿岸広域振興局/土木部/主査(前 宮古事務局/主査) 山崎 亨  
退 職(前 教育研究支援室/特命課長) 臺 徹  
退 職(前 教育研究支援室/特命課長) 川林 祥平  
退 職(前 学生支援室/上席看護師) 平 栄子  
退 職(前 地域連携本部/コーディネーター) 岸本 禎昭  
平成25年4月1日付転入・採用  
教育研究支援室/教育研究支援課長(前 総務部/総合防災室) 高松 秀一

教育研究支援室/特命課長(前 盛岡第四高等学校) 須貝 竹志  
教育研究支援室/特命課長(前 福岡高等学校) 佐々木 龍孝  
教育研究支援室/主幹(前 農林水産部/岩手県林業技術センター) 白鳥 玲子  
教育研究支援室/主事(前 農林水産部/岩手県水産技術センター) 高橋 美樹  
学生支援室/室長(前 沿岸広域振興局/大泊渡地域振興センター) 八重樫 一洋  
学生支援室/副参事兼学生支援課長(前 岩手県人事委員会事務局/職員課) 細川 仁  
学生支援室/主査(前 盛岡広域振興局/経営企画部) 齋藤 比呂彰  
学生支援室/主査(前 総務部/総務事務センター) 中村 沙織  
学生支援室/上席保健師(前 東北広域振興局/保健福祉環境部) 琵琶坂 和江  
地域連携室/主査(前 東北広域振興局/二戸地域振興センター) 平野 朋子  
企画室/室長(前 保健福祉部/医師支援推進室) 今野 秀一  
企画室/企画課長(前 岩手県教育委員会事務局/学校教育室) 中里 裕美  
企画室/主幹(前 農林水産部/団体指導課) 館向 暢人  
企画室/主幹(前 岩手県教育委員会事務局/教育企画室) 寺澤 敬行  
企画室/主幹(前 農土整備部/都市計画課) 本正 義則  
企画室/主査(前 出納局) 福岡 洋子  
企画室/主査(前 総務部/総務事務センター) 豊間根 正明  
企画室/主査(前 総務部/税務課) 和久石 直人  
企画室/主査(前 保健福祉部/児童家庭課) 三浦 勝  
宮古事務局/主幹(前 沿岸広域振興局/農林部/宮古農林振興センター) 西野 佑美  
教育研究支援室/主事(新採用) 佐藤 佳孝  
教育研究支援室/主事(新採用) 伊藤 和恵  
学生支援室/特別支援コーディネーター(新採用) 平中 陽太  
地域連携室/主事(新採用) 照井 真知子  
地域連携室/コーディネーター(新採用) 大橋 裕司  
企画室/主事(新採用) 三輪 恵子  
企画室/主事(新採用) 伊東 和恵  
企画室/主事(新採用) 平中 陽太  
企画室/主事(新採用) 佐久間 綾美

**平成25年度岩手県立大学公開講座 (滝沢キャンパス講座)**

本学では開学以来、大学の教育・研究の成果を還元し、地域社会の発展に貢献することを目的として、公開講座を開講しています。震災から二年が経過した今、復興に向けて取り組む岩手の姿を知り、今後への展望を持つきっかけにいただければと考えております。どなたでもご参加いただけますので、ご家族、ご友人などお誘いあわせてお気軽にご参加ください。

- 7月27日(土) ■ 講座1 13:15~15:15 三陸鉄道 復旧・復興の取組み ~鉄道の復活で笑顔をつなぐ~ 講師:望月 正彦氏(三陸鉄道株式会社・代表取締役社長)
- 8月31日(土) ■ 講座2 10:00~12:00 復興へ歩み続ける「がんばる水産業」 講師:新田 義修氏(総合政策学部准教授)
- 講座3 13:15~15:15 震災後の岩手観光の方向性 講師:宮井 久男氏(宮古短期大学教授)
- 9月7日(土) ■ 講座4 10:00~12:00 東日本大震災時における福祉避難所の活動 ~いわゆる「災害弱者」をどのように支援したか~ 講師:細田 重恵氏(非常勤講師)
- 講座5 13:15~15:15 ベテランの退職看護師有志とともに歩んだ震災一年後からの健康支援活動 講師:三浦 まゆみ氏(看護学部教授)
- 9月28日(土) ■ 講座6 10:00~12:00 2019年ラグビーワールドカップを釜石で!-ラグビー-民俗話の作成から見てきた地域のラグビー-土壌を考えると 講師:原 英子氏(盛岡短期大学部准教授)
- 講座7 13:00~15:00 SAVE IWATEの活動~被災者支援から新しい地域・社会支援へ~ 講師:金野 万里氏(一般社団法人SAVE IWATE事務局長)

●全ての講座に手話通訳をご用意します。

※講師・タイトルは変更となる場合がありますのでご了承ください。

「伝えたい」という思いが、壁を超える力。  
国際交流で学んだ積極性を、将来に活かしたい。



地域貢献を使命の一つに掲げる  
岩手県立大学。  
学習や研究に励みながら  
地域に役立つ力を磨く在学生と、  
仕事を通じて  
地域づくりに関わる卒業生、  
それぞれの熱い思いを  
紹介します。

### 在学生

盛岡短期大学部に進学したのは、故郷に近い公立短大だったから。英語は好きでしたが、受験時は違う分野への進学も考えていました。でも国際文化学科で勉強を始めてから意識が変わり、英語や異文化を学ぶ楽しさに目覚めたんです。

中でも興味を持ったのが、「多文化共生論」。国ごとの文化や習慣などの違いを理解し、比較考察することがとても面白い。結婚式場でアルバイトをしているのですが、結婚式は国の宗教観や文化が集約される儀式。各国の違いを卒論のテーマにしたら、面白いんじゃないかと考えているところです。

1年生の時には国際交流にも挑戦しました。昨年9月に復興支援に訪れたオハイオ大学の学生たちを、国際文化学科の学生20人でサポート。彼らに同行して被災地見学やボランティアを行い、今後でできることについての意見交換もしました。数日を一緒に過ごして驚いたのは、彼らの積極性。言葉が通じなくても、交流しよう、理解しようという努力。その様子を見て、「うまく話す」ことよりも「伝えたい」という意思が大事だと気づきました。

この経験を踏まえ、今年2月のアメリカ研修では、多くの人と話すように心がけました。短い期間でしたが、改めて日本を見つめ直したり、自分の今後を考えるいい機会になったと思います。将来は、旅行関係の仕事に就くことが夢。いろいろな国での体験を通して、人とのネットワークをもっと広げていきたいですね。

**小泉 菜緒** 盛岡短期大学部国際文化学科2年生  
1993年青森県八戸市生まれ。青森県立八戸東高校卒業。高校時代はバスケット部のマネージャーだったが、大学ではパドミントンサークルに加入。アメリカ研修後は、もともと大学のことや日本のことを知りたいと考え、大学を案内するキャンパスアンバサダーに応募し、さんさん通り同好会にも参加。積極的に学生生活を楽しんでいる。

### 地域をつくる 希望の星たち



東京で培った経験を岩手のために。  
地方のクリエイティブ力をもっと磨きたい。

### 卒業生

高校時代から映像に興味があつて、テレビ局への就職を考えていたんです。ちょうどその頃は、テレビでCGが多用された時期。コンピュータの世界から映像にアプローチするのも面白いと思い、岩手県立大学ソフトウェア情報学部に進学しました。大学時代は「映像伝送」を応用し、全方位カメラで360度の映像を一枚の画像で表示できるシステムを研究。その一方で、大学祭実行委員会での活動にも熱中しました。委員長を2年間務めたのですが、この時に広がった学部を越えた横のつながりと、学部内での縦のつながりが、今でも私の財産になっています。

大学院を修了後、最初に就職したのが日本で商用インターネットサービスを最初に始めた「IIJ」\*。システムエンジニアとして入社したのですが、マネジメンント力を評価されてプロジェクトマネージャーに。この仕事は、いかに人を動かし、成功に導くかがすべて。そのため心がけたのは、人の話を否定せず、一度は全部受け入れること。感情に走らず、冷静に判断すること。IIJでは、このようなマネジメントスキルやネットワークの仕組みを学びました。

「東京で5年間勉強したら、大好きな岩手に帰ろう」と決めていた私は、この春から番組制作等を手がける「フロムいわて」に転職。念願だった映像制作に携わっています。新たな仕事を始めたばかりですが、東京で様々な世界を見たことで、改めて岩手には「伸びしろ」があると感じます。その可能性を拓くために、まずは映像分野から変えていきたい。岩手発のクリエイティブを全国に発信していくことが目標です。

**佐藤 洋介** 株式会社フロムいわて制作部  
1984年滝沢村生まれ。岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学専攻科博士前期課程修了。高校時代は視聴覚委員会活動し、環境保護をテーマとした映像作品で、全文祭優秀賞を受賞。この春、東京から岩手にUターンし、現在は番組制作のディレクターとして修業中。休日は2人の娘と遊ぶのが趣味とか。

県大いいね! キャンパス・アテンダントがご案内します!

# キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力を楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、40名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!



## Vol.4 / キャンパスでアートと賢治の世界を体感しよう!

美しい樹木や花々が彩る県立大学は、今が一番爽やかな季節。この自然豊かなキャンパスに、アートやモチーフが散りばめられていることをご存知ですか? 今回は、CAたちが外に飛び出して、見所を紹介。普段の光景に込められた物語などを大公開します!



### ② 講堂の十字

白鳥座の北十字が旅の始まりを告げ、南十字星が旅の終わりを告げる。「銀河鉄道の夜」に出てくる2つの十字をイメージしたのが、この大きな十字。学生たちの未来への道のりを指し示す、道標にも見えますね。



「銀河鉄道の夜」がモチーフなんだって!



### ③ アースワークで作られた渦巻き

本部棟の西側にあるグルグルの渦巻きは、銀河ステーションをイメージしたもの。アースワークという技法を使って、作られているんですよ。

### ④ 学部のシンボル

県大モールに配置された5つの頭のモニュメント。これ、4学部と短大部のコンセプトに基づいて作られた、知のシンボルなんです。5つのピースを全部つなげると、一つの頭が完成するように作られているんですよ。

### ⑤ 渚

岩手出身の彫刻家船越保武の作品。他にも「瀟」の像などいろいろあるよ!



## 様々なアート作品や賢治の童話のモチーフがあちこちに!

県立大学の滝沢キャンパスには、彫刻などのアート作品や宮沢賢治の「銀河鉄道」にちなんだモチーフが点在しています。例えば今回ご紹介する銀河ステーションをイメージした渦巻きや十字など、普段目にしていない風景の中に物語にまつわる意味が隠されているんです。時にはキャンパスをお散歩しながら、アートや物語の世界に触れてみるのも楽しいですよ。



冬の景色も幻想的だよ

### ① ドイツトウヒ

短大棟のそばに佇むドイツトウヒは、「銀河鉄道の夜」に登場するケンタウル祭の聖木のシンボル。欧米ではクリスマスツリーに使われる木で、雪化粧した姿もステキですよ。

◎アート作品はここで紹介した他にもたくさんあります。詳しくはアートマップでチェック! <http://www.iwate-pu.ac.jp/outside/media/ipuartmap/artmap.htm>

## 編集後記

特集2の中村学長と坂口さんの対談で、「学生たちに岩手の良さをもっと知ってほしい」と語られた中村学長と、被災地取材する中で生まれた「震災復興学を立ち上げる」という思いから、大学院へ進まれた坂口さん。和やかな雰囲気の中で、お二人の岩手への愛着と思いを感じました。強い思いを実現するための場として岩手の大学、中でも本学を選ばれた坂口さんの、  
「今勉強が楽しくてたまらない」という言葉が印象的でした。(企画室 三輪陽子)

5月に、第5回目となる体育祭が行われました。当日はあいにくの曇り空のため、体育棟での実施となりましたが、新種目ドッチビーを勝ち抜いた教員チームの歳を感じさせないハツラツとした姿や有志によるしっぽ取り鬼ごっこでの後ろ向きで走り鬼の手を華麗によける参加者など、見どころ満載の楽しい体育祭でした。体育祭実行委員会は、夏からは11月にある球技大会に向けて始動するそうです。大学内での交流の場として大きな行事です。体育祭の盛り上がりを見ることが非常に楽しみです。(出版委員会 坂松春香)

新年度を迎え約3ヶ月が過ぎました。大学という新しい環境に期待と不安を抱きながら入学してきた1年生も、大学生活に慣れてきたように感じます。学内では、8月に行われるさんさ踊りにむけて練習が始まり、太鼓や笛の音が響きわたっています。県立大学は毎年さんさ踊りに参加していますが、今年も最優秀賞を頂くことができるようにと練習にも熱気がこもっているのです。さんさ踊りに行く方は期待してくださいね!(出版委員会 渡邊奈央)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会  
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52  
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001  
[URL] <http://www.iwate-pu.ac.jp/>  
[e-mail] [management@ml.iwate-pu.ac.jp](mailto:management@ml.iwate-pu.ac.jp) 発行:2013年6月30日